

本年度の結果

	数学
阿蘇市	47
全国	51.0

領域別	数と式	図形	関数	データの活用
阿蘇市	55.2	28.4	51.8	44.8
全国	63.0	33.2	51.2	48.5

観点別	知識・技能	思考・判断・表現
阿蘇市	51.0	38.5
全国	55.7	41.6

本年度の主な結果について

- 領域別には「関数」が全国を上回っており、昨年度から改善が見られた。
- 領域別にみると、「数と式」「図形」「データの活用」の3領域とも課題がある。
- 観点別に見ると、「知識・技能」「思考・判断・表現」とも課題がある。
- 既習事項や数学的な表現を用いて根拠を明らかにして筋道立てて説明することに引き続き課題がある。また、複数の条件の基に解答することに、引き続き課題がある。

成果と課題

学力調査から

【定着している内容】

- 数と整式の乗法の計算をすることはできている。(2)
- 問題場面における考察の対象を明確に捉えることはできている。(6(1))

【課題】

数と式

- 自然数の意味の理解に引き続き課題がある。(1)
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに引き続き課題がある。(6(2))
- 結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つことを見だし、説明することに課題がある。(6(3))

図形

- 空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることの意味に課題がある。(3)
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することに課題がある。(9(1))
- 条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がある。(9(2))

関数

- 反比例の意味の理解に引き続き課題がある。(4)
- 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題がある。(8(1))
- 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。(8(3))

データの活用

- 四分位範囲の意味の理解に課題がある。(7(1))
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。(7(2))

質問紙調査から

【肯定的な回答の割合が高かったもの】

- 「解答を言葉や数、式を使って説明する問題」について、全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した生徒は昨年度よりも増えている。

【課題】

- 「数学の勉強は好きですか」、「数学の授業の内容はよく分りますか」は減少傾向にあり、依然として課題である。

課題等に対応した改善指導内容

【授業改善】

- OPDCAサイクルによる課題探究型学習を進め、課題設定一見通し一解決する一まとめ一振り返りの学びを構築する。さらに、アウトプットを重視した授業づくりを進め、知識の構造化を図る。
- 生徒自らが「問い」を見だし、解決方法の見通しを持って課題解決に取り組ませる。
- 結論を導くために何が分かればよいかを明らかにし、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質や関係を見だし、事柄が成り立つ理由を筋道立てて考えたりするなど、事柄の成り立つ理由を数学的に説明する活動を充実する。
- 協働的な学びでは、数学的な見方・考え方を働かせながらこれまでの知識・技能をアウトプットして数学的に考える資質・能力を育成する。

【日常的な取組】

- 生徒主体の授業づくりを目指し、数学的活動を通じた活動や効果的なICTの活用を図る。
- 少人数指導や個別指導等で基礎・基本の習熟を図り、補充的・発展的な問題の指導を行う。

【家庭学習等】

- 授業内容に応じた課題を出し、AIDリルを活用した習熟や予習の充実を図る。